



当時のジャミング・ホット・セブン

軽音楽クラブ部史(6)

懐かしのジャミング・ホット・セブン

堤 浩一 (S40年卒/DX)

私はフルバンド(BSS)に所属していたが、ジャミング・ホット・セブン(JHS)を知ったのは、2年生(1963年)のときだった。そんな頃のある日、

私は何故かJHSのメンバーと、日本短波放送局の録音スタジオの中に居た。たしか、東京の大学だか、全国の大学だったか忘れたが、とにかく、大学のテキシーランドジャズバンドを紹介するための番組が企画され、そのためJHSもその日スタジオで録音する予定だった。私はただ興味半分でメンバーについて行ったのだと思う。

当時JHSのメロは、久野(2年先輩)さんのクラリネットに上原(1年先輩)さんのトロンボーン、それに同期の山下君かコルネットを吹いていた。

その山下君が、待てど暮らせどスタジオに現れない。あたえられた持ち時間には少なくなっていた。

その時、突然誰かが私に、代わりにラッパを吹け!といった。そうするしか無かった。曲はたしか「ザッツ・ジ・フレンチ」。私も知っている曲だ。あわてて楽器を取り出し、スタジオの中で心魂砕

習が始まった。続いて本番の録音。それはアツという間の出来事だった。

後日この番組は、たしか深夜に放送された。自分達の音楽が、今、電波に乗って全国を駆け巡っているという事実を、誇らしいように感じ、反面、恥ずかしいようにも感じ、なんとも複雑な気持ちだったのを覚えてる。

このハプニング以来、私と山下君がお互い入れ替わり、それぞれの再出発となった。

だから、私はJHSがいつ頃どうして没生したのか等の話は、あまり詳しくくない。

その頃のメンバーは、CL/久野さん(リーダー)、TB/上原さん、P/若林さん、BASS/柴田、DR/神田、G/川谷、だったと記憶している。

JHSのテーマ曲は「Tin Roof Blues」だった。ゆっくりとしたテンポで始まるメロデーだが、ほどよい緊張感があり、いいテーマ曲だったと思ってる。あの当時、クラリネットの久野先輩は、エドモンド・ホールに狂い犯されていて、私と同期で久野さんの後釜の塚原君や、

ドラムの神田君達もかなりそれに感化された。だから、スウィングキーなエディ・コンドンやそれに近いスタイルの演奏を好んで聞いた。

トロンボーンの上原先輩は、どちらかというところマイルス・デイビススタイル派だったので、リーダーになられてからは、それなりの演奏方法をみっちり指導してもらった。

ジャズはフリーリッジが大切だと教えられ、暇さえあれば、当時水道橋の橋のたもとにあった「スウィング」というジャズ喫茶に通った。たまたま杯のコーヒィ、あるいは一杯のコーヒィで、半日いや、日中ねばり、貪り聞いた。

今にして思えばよくあんな時間があつたものだと思心する。学生の本業さつちのことで、二休自分はこれだけのだろうかと自問する。暇さえもなかつたくらいだ。

3年生、4年生の頃は、11月も後半になると、ダンスパーティーの仕事が舞い込ませて来た。それも12月にはかなりの出演回数になり忙しかった。

しかも時にはプロのバンドと合帯になることもあり、それはそれで勉強にもなった。仕事が終わった後、楽器を片付けて、学校の下の洋食屋キッチン、

カロリーで、反省会を兼ねながらの食事はなんともいえず楽しかった。

しかし、JHSにはそれ以上の楽しみがあったのだ。なんと、暮れになると、貯めていたギヤラが皆に分配されるのだ。貧乏学生にとつては、誠に有り難くて、



このときはばかりはバンドやついでよかつたなど実感する瞬間でもあった。

今と違い、当時はほとんどの大学にデイキシーランドジャズバンドがあつて、お互いそれなりの交流もしていたし、活躍の場があつた。

早稲田の大隈講堂では六大学ジャズ祭りがあり、また渋谷ではデキシーシンシヨリ(全国大会)がオールドナイトぶつづけで行われ、我々が解散したときは朝日がさしていたというような時もあった。

また東京オリンピックのときに、代々木選手村のインターナショナルホールで、大学バンドの演奏会が開かれた。選手村の中では、アイスクリームが食べ放題だった。

ソ連の女子砲丸投げのタマナ・プレスと擦れ違つたとき、握手をしてもらおうと、振り返り、腰の辺りをつついて合図をしたが、彼女は振り返りもしなかった。

一度、相撲の小錦みたいな体付きで、ちょっと触つた位では、感じなかったのかもしれない。

いや、もし感じていたら、現在の私は届かなかつたかもしれない。

バツククレイトンという私の好きなトランペッターの東京公演の時、皆で聞きに行ったが、休憩時間に巨く楽屋に忍び入ることができ、彼に面会できた。誰かがブルースコードを聞いてみると、うので聞いたら、我々がやっていたのと同じだったので、がっかりした。といった具合で、書き出せばきりが無い。

この程度の話題には事欠かなかったのがJISだった。

我々は、音楽も習慣も違つた国のデキシーランドジャズという音楽を、十分に研究し、そして再現し、皆さんに喜んでもらおうと努力してきた。

だから、それは今日でも十分に受け入れられる音楽である筈だと確信している。

関西では、今でも多くのデキシーランドジャズバンドが活躍しているし、毎年神戸で行われる「全日本デキシーランドジャズフェスティバル」はその象徴ともいえる大会だ。

せめてOB達の中にも、JHSの復活を期待したい。

HOFFMAN INTERNATIONAL

代表取締役

程島 幸男 (45年卒/BS)

イベント企画・キャラクター及び販促商品の企画

〒107-0052 東京都港区赤坂2-8-14 オータビル603
TEL.03-3568-7457 FAX.03-3568-7458

はんこ倶楽部

〒101-0022 東京都千代田区神田練馬町56

モテギ(株)東京店 代表取締役 茂手木 寛 (46年卒/BS)

TEL.03-3255-7493 FAX.03-3255-7494

水山商会 代表 水山 祐輔 (46年卒/BS)

TEL.03-3255-5336 FAX.03-3255-5337

ライブ ビストロ

november eleventh

おしゃべりに飲んで、おいしく食べて、その上、ライブが楽しめる。
毎月最終月曜日は、参加自由のジャズセッション。ぜひ、ご参加下さい。

木村 修史 DX・広子 GH/S43年卒

〒107-0052 東京都港区赤坂3-17-8 都ビル2F(赤坂一ツ木通り真ん中あたり)

tel.03-3588-8100

http://www.ubonet.or.jp/1111/

営業時間*18:00~25:00 1st stage*19:30~ 2nd stage*21:30~ ライブチャージ¥2,000~

みなと屋 衣裳店

高知市はりまや町3-20-5 TEL.83-1760 夜間75-646

代表取締役

福江 義史 (43年卒/BS)

チャペルウェディング
new hope chapel

高知市桜井町1-7-5 TEL.83-6189 FAX. 83-6189

Basel CO.,LTD

Sales Promotion Agency & Products

代表取締役

中村 真一

(43年卒/BS)

株式会社 バーゼル

〒104-0061 東京都中央区銀座1-20-6 恒本ビル
電話(03)3567-2614 FAX.(03)3567-2613